

# 高次脳機能障害の夫とくらす日々

安倍 洋子（6組）



二〇一一年四月十五日、私達の四十九回目の結婚記念日当日の朝、私は主人の異変に気付きました。

ほんとうにいつも元気で「疲れた」と言いつ事を言わない行動的な主人が、（朝食の準備をしている私のところへ二階から降りて来た時の）「顔色が少し悪いなあ」と私は感じました。でも、主人は前夜入れた食洗機の中の食器を食器棚に戻して呉れたり、私を手伝っていました。

その内、テーブルにつき毎朝の習慣である大根おろしを自分でおろしていました。それを入れる小皿を下に落とし、自分で拾い、次にごはんちゃん一杯食べ、その頃から左の口角が少し下がっているのに私は気付き、救急車を呼びました。

幸いに救急車はすぐ来て、金曜日の開院前の国立病院へと運ばれ、診察の結果「脳内出血」と診断されました。

主人には心筋細動の持病があり、投薬は受けていましたので、治療もTPAその他の処置で手術をせずに二ヶ月の入院生活をこの病院で過ごしました。

この間、肺炎等をおこし、高熱が出たり、ほんとうにもうダメかなあーと思う事が数回ありました。ある時、高熱最中の眠りから覚めた主人が「えんまさんが、安倍さんはまだ仕事があるから帰んなさい」と言われたと言って、私と娘をびっくりさせました。

このことがあってから、私は「この人は色々人のために、いやがらずにやってく来た人だから助けて頂けるかも」と思うようになりました。

この病院では、ベッドの上だけの簡単なリハビリで、口からの食事は一回もなく、高カロリー栄養食を管から入れていましたが、体重も10kg程落ちて、ほんとうに可哀な姿でした。

リハビリの病院に転院して二日後には全ての管がはずされ、入浴も入院後初めてして、気持ち良くなった。口から食事が始まり、毎回完食でびっくりする位の早さで、体力的には回復していき、左側に軽い後遺症がありましたが、日常生活に支障はありません。

只、リハビリの先生より退院間近になって「高次脳機能障害があります」と診断

され、私は初めて聞くこの障害の意味がわかりませんでした。

一見みたところ、この頃（発病三ヶ月後）の主人は、よく食べ会話も普通に出来て、日常生活はほぼ自分で出来ましたので「これ迄の樹さんとは違う樹さんと生活する事になると思えます」と言われ、「ええっ、それってどういう事？」と思いましたが、リハビリも一ヶ月という早さで退院出来、先生はじめ看護師達もびっくりしていました。いざ日常生活が始まりますと主人の場合、①日時が理解出来ず、②新しい事を（経験した事のないもの）中々憶えられない、今迄のようにやる気がおきない、等色々ありますが、性格はすごく穏やかになり、微笑ましくさえ思える時もあります。

外出も近所やいつも行っている病院等は一人で行き、都心迄出かける時は私が同行します。心配しながら待っているよりその方が私が楽なのです。

今迄、主人がよく利用していた乗換駅等は、逆に私を誘導しますが、ちょっとしたにかした時、解らなくなるからです。

ご存知の方もいらっしゃると思いますが、最後に高次脳機能障害について私が最近本等で見聞きした事を記しておきます。

病気や事故等の原因で脳の一部が損傷され、言語、思考、記憶、行為学習、注意等に機能障害が起きた状態を言います。

原因として多いのが、脳卒中で交通事故やその他の事故等による外傷性の脳損傷でも多く見られ、この障害の千人の方がいたら、千人千様だそうです。

幸いな事に主人は中でも、ほんとうに軽い方だと思えますが、日々日常化した中で一緒に生活している者にしかわからない苦労があります。

外から見てもわからないので、見えない障害とも言われていますが、日々色々な事で怒ったり笑ったりして暮らしていますが、解ってはいるけど現状を受け入れる事の修養が足りない自分を時々いやになったり、一番大変なのは主人だろうなあーと気付いたり、入院中あんなに大変な思いをしたのに「ここにこんなに元気な姿で生きているじゃない！」と思って自分を励ましています。

どうぞ皆様、周囲にこの病名の方がいらっしやったら理解してあげて下さい。

私も日々笑顔で、主人に接しられるようがんばります！

